

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.21(日)	旭太田	発言者A	<p>太田小学校区の神須屋町に住む、未就学児の保護者なのだが、スライド資料18ページにある、通学区域が見直される6人の中に含まれるということか。</p> <p>適正規模・適正配置の取組方針、旭小学校と太田小学校と常盤小学校の一部の児童が合わさって、通学区が変わることは何となく理解できたが、本来土生中学校へ進学するはずの6人だけが、葛城中学校に進学するとすれば、人数の割合からして少なすぎる。</p> <p>当該地域に住む人は、賃貸ではなく持ち家が多く、自宅を購入する際にも、我が子が太田小学校、土生中学校へ通学することを想定した上で購入していると思う。</p> <p>太田小学校の児童全員が、新たに葛城中学校に進学しなければならないのであれば納得できるが、少ない人数だけが太田小学校から分かれて進学してしまうことで、中1ギャップに+aの悪影響が生じるのではないか。</p> <p>常盤、旭校区を含め、通学区域の見直し対象地域で、調整区域を設けてもらえるのか。強制的な変更なのか、調整余地があるのか教えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、太田小学校区の通学区域の見直し対象者数は非常に少ない。今回の適正化計画（案）について、神須屋町が現在4つの小学校区に分かれていることを踏まえつつ、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案し、策定したが、あくまでもたたき台としての「案」である。</p> <p>現在の通学区域にある小学校、中学校へ通うことを想定した上で住宅を購入された方もいらっしゃるということも、承知している。</p> <p>調整区域の設定については、地域の皆様の様々など意見を伺いながら、十分に協議していきたい。</p> <p>この計画（案）のまま確定して、変更ができないというものではない。一方、教育委員会として、総合的な検討を経て策定した計画（案）でもある。今後、様々など意見をいただく中で、より子どもたちの教育環境向上に資するような計画（案）にしていきたいと考えている。</p>
2	11.21(日)	旭太田	発言者A	<p>ぜひ調整区域設定の方向で考えてほしい。近所では、実家が太田小学校区の流木町や畑町にある方が多く、住民票を実家へ移動させ、元来の学校へ通わせたいという保護者もいるため、実際は6人よりも減ってしまうことを危惧している。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
3	11.21(日)	旭太田	発言者B	<p>旭小学校区の神須屋町に住んでおり、子どもが現在小学校へ通学中なのだが、旭小学校と土生中学校へ通学することを前提に自宅を建てており、そうでなければここには建てていなかった。</p> <p>地域コミュニティに関して、神須屋町は旧有真香村に属するとあるが、現在でも旧有真香村のコミュニティは強固なものなのか。神須屋町内で、小・中学校が分かれていることは随分前から話だと思ふ。そのような中で、旧有真香村という話を出してくるのはこじ付けのように感じる。</p> <p>先ほどの方と同じ意見になるが、調整区域の設定を考えてもらえないかと思う。</p> <p>地域の皆様のご意見を伺う、とあるが、それはこの説明会の場での意見なのか。それとも、町会等の団体から意見を述べなければ聞き入れてもらえないのか。通学区域の見直し地域に住む人々に意見を聞かず、各町会が了承したから進める、ということでは、話が異なると思うので、教えてほしい。</p>	<p>現在の計画（案）をたたき台に、町会といった特定の団体に限らず、今学校へ通学している児童生徒の保護者の方々、今後通うことになる未就学児の保護者の方々等からご意見を伺う機会について、本日と次回回の説明会のみとは考えていない。</p> <p>今後も引き続き、地域・保護者の皆様からご意見を伺いながら、課題についての解消を図っていく。</p> <p>町会だけの了承を以て、取組を進めていくという考えではない。</p>
4	11.21(日)	旭太田	発言者B	<p>スケジュールについて、現在は確定したことが言えないというが、教育委員会として、いつ頃を「n年度」と想定しているのか。市で議案を決議して云々、ということはあるだろうが、それをいつ提出しようと考えているというくらいは言えると思う。</p> <p>時期によって、ちょうど小学校入学時にあたるとか、中学校入学を控えた小学校高学年にあたりとか、保護者としては一番気になる点である。確定はできないだろうが、現状の考えを聞かせてほしい。</p>	<p>先ほど述べたように、今後、各地域に入って意見交換を行う。その中で、地域の皆様と一定の合意が早期に至れば、スケジュールは早まる可能性もあるが、十分な協議が必要だと考えている。</p> <p>地域の皆様から、一定のご了承を得られれば、そこで初めて（仮称）学校開校準備委員会を設置できると考えている。準備委員会の発足後5年程度で新たな学校が開校することになるため、仮にスムーズに進んだとしても、令和10年頃の開校になると想定している。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
5	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>小規模校を統合するメリットは理解するが、既に旭小学校や太田小学校に通学している子どもが、新たな学校に通うメリットもない。先ほどの方々と同様、調整区域の設定を希望する。</p> <p>説明の中で、新しい学校ができれば、在学中の児童生徒は転校せずに卒業まで在籍できるよう検討するとあり、それはありがたいのだが、仮に兄弟で、上の子どもが6年生、下の子どもが小学校に入学という場合に、兄弟で違う学校へ通学することになるのか、ということもあるし、本人たちの希望で学校を選べる余地があった方が、地域としても、学校としてもトラブルなく進むと思う。</p>	【ご意見として承る】
6	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>小中一貫校のメリットは理解でき、中1ギャップのことも、一貫した指導のこともわかるのだが、旭小学校や太田小学校から土生中学校へ進学する子どもも、そういった指導を受けられるのか。先ほどは、一貫校以外でも連携教育をさらに充実していくといった説明だったと思うが、そうならば、やはり旭・太田・常盤校区においては調整区域の設定を望む。</p>	<p>岸和田市の11中学校区すべてで、小中一貫教育を導入していく方針。これまでも長年、中学校区ごとの小中連携教育に取り組んできたところだが、それを整理し、一つの目標を定めていく方向性である。旭小学校、太田小学校、土生中学校においても、小中一貫教育を推進していく。</p>
7	11.21(日)	旭太田	発言者D	<p>旭小学校在学中の児童は、そのまま卒業できるという配慮をしていただけると理解するが、卒業後も、元来の土生中学校に進学させたい。</p> <p>もし、そのタイミングで（仮称）葛城小中一貫校へ進学するとなれば、これまでともに学んできた多くの友だちと別れ、少数の友だちとしか一緒に進学できないので、独りで中学校に挑むような格好になってしまう。</p> <p>中1ギャップの解消の意味がなくなってしまうので、考慮していただきたい。そうでなければ、例えば「小学校中学年のときに新しい学校に移ればよかった」という後悔も出てしまう。</p>	<p>保護者の皆様が不安に思われる点について、皆様にご納得いただけるよう、解消に努めていきたい。</p>
8	11.21(日)	旭太田	発言者E	<p>スライド資料22ページに図を示しているが、旭・太田小学校区の神須屋町が、（仮称）葛城小中一貫校へ新たに通学するとなっている。真ん中のあたりは多くが田んぼだと思う。この区分けは、単に番地で分けたのか。</p>	<p>神須屋町が4つの小学校区に分かれている課題を受け、町として、一つの学校へ通学することが望ましいのではないかと考え、町全域をエリアで捉えたもの。</p>
9	11.21(日)	旭太田	発言者E	<p>神須屋町から要望があったのか。</p>	<p>過去、通学区域に関してご要望を受けた経緯はあるが、それだけではなく、教育委員会として、各学校の規模や配置バランスを踏まえてお示した案である。</p>
10	11.21(日)	旭太田	発言者E	<p>流水水源地線沿いにある、鍵のような形のエリアは、実質流木町である。周囲は土生中学校区だが、その神須屋町部分だけが通学区域変更となるのか、それとも調整区域を検討するのか。</p>	<p>当該地域の児童生徒は、（仮称）葛城小中一貫校を通学区域とする案を示したが、現時点でのたたき台であり、保護者の皆様のご意見も踏まえて検討していく。</p> <p>また、通学区域の見直し対象地域には、他町の飛び地が多くあり、それらを含む一体のエリアとして捉えているので、その飛び地に住む児童生徒も（仮称）葛城小中一貫校を通学区域とする案になっている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
11	11.21(日)	旭太田	発言者E	先ほど、神須屋町は旧有真香村であったが、今回線引きされた地域は多くが土生郷村に近い。町会としては、土生町、畑町、極楽寺町、流木町に入っている実態があるので、そのあたりも考慮して検討してほしい。	総合的に鑑みて策定した計画（案）ではあるが、ご意見をいただいた部分も踏まえ、検討していきたい。
12	11.21(日)	旭太田	発言者F	地元は天神山だが、孫がこの校区の学校へ通学している。 小中一貫校と小中一貫教育は異なるというが、ごまかされている気がする。	小中一貫教育と小中一貫校を混同されないような説明に努めているが、再度説明させていただくと、これまで小中連携教育を小・中学校で常に行ってきたところ、同じ目標を持って、小中連携教育から小中一貫教育に発展させようというのが、小中一貫教育基本方針であり、小中一貫校を推進するものとは異なる。
13	11.21(日)	旭太田	発言者F	施設一体型小中一貫校では、小学生と中学生が同じ敷地で生活することになる。孫の住んでいる場所は通学区の見直し対象地域から外れているので、ほっとしているが、もし孫が通うことになれば非常に不安。 身長170～180cmの中学生と、100cmちょっとの小学1年生が同じ敷地で過ごすことに不安がある。安全にするとはいうが、どこまで対策してもらえるのか。	全国の小中一貫校における好事例も参考にし、適宜視察も行いながら、良い所を採用していきたい。 例えば、小・中学生がグラウンドを安全に使う上での工夫や、階段の高さを小学校低学年向けに統一するといったハード面での整備等が、先進事例ではみられる。 学校の安全対策については、今後もしっかりと対応していく。
14	11.21(日)	旭太田	発言者F	新型コロナウイルス感染症がどのように収束していくか不明で、再度感染者数が増加する可能性もある状況において、なぜこんな話を進めていくのか、と大学の先生が仰っていた。そのあたりも聞かせてほしい。	適正規模・適正配置の取組については、子どもたちのより良い教育環境の整備や、学校教育の充実を最優先に進めるもの。 新型コロナウイルス感染症拡大といった不測の緊急時において、子どもたちの三密を避ける対策と、現在進めようとしている適正規模・適正配置の取組は、異なるものだとも認識している。 コロナウイルス対策については、国や府のガイドラインを遵守し、各学校で対応しているとともに、どのような規模の学校においても適切に対応しているところ。
15	11.21(日)	旭太田	発言者G	今回は小中一貫教育の基本方針であって、小中一貫校に係る基本方針ではないということとはよくわかる。 しかしながら、方針本編の7ページに、「本市の小中一貫教育の推進に向けて、施設一体型小中一貫校又は施設隣接型小中一貫校の整備を図り、モデル事例として実施」とある。（仮称）葛城・山滝小中一貫校はモデル事例なのだ。 モデル事業というものは、上手くいかなければ元に戻すということも含めて、モデルだと理解している。 ただ、読み進めると「モデル事例での取組みを評価・検証し、将来的にはすべての中学校区において、小中一貫の教育を推進していきます」と記載がある。 つまり、モデルが上手くいけば、土生中学校区においても小中一貫校にするということ。 モデル事業が上手くいって10年後ぐらいになると思う。今の子どもたちは既に土生中学校を卒業しているが、その段階で土生中学校区も小中一貫校になると書いているのに、なぜ説明しないのか。	小中一貫教育基本方針に基づき、市内の小・中学校において小中一貫教育を推進することについては、決定事項である。 小中一貫校については、小中一貫教育を進めるにあたり、小・中学校の児童生徒が交流するための活動や、教員相互の交流、相互乗り入れ指導のことを考えた際に、小・中学校の物理的距離が離れているよりも、より近い、もしくは一つの敷地内に設置されている方が好ましいため、取組を進めようとしている。 ただ、小・中学校間の物理的距離が一定程度あり、また一つの敷地に小・中学校を設置できないといった制約がある場合、施設一体型ではなく、施設分離型での小中一貫教育を実施していく。 また小中一貫教育基本方針7ページについての表現に関して、現在の計画（案）で示している（仮称）葛城小中一貫校と（仮称）山滝小中一貫校については、施設一体型小中一貫校としてのモデル校という意味である。 施設一体型小中一貫校が設置される、されないに関わらず、モデル校を定め、そこから推進していくということなので、今後、よりわかりやすい表現を検討する。

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
16	11.21(日)	旭太田	発言者G	<p>何となく、今の回答は分離型一貫教育の方にウエイトを置いたような内容に感じる。</p> <p>小中一貫教育は、広島県呉市が全国で最初に始めた取組である。呉市に赴き調査したところ、施設一体型の小中一貫校が4つあり、残る十数校は現在も分離型である。取組開始から20年が経過するが、未だそういった状況。</p> <p>東京都品川区は二番目に取り組み始めたが、ここも多数は分離型。なかなか施設一体型は難しい。</p> <p>呉市の方も、一般的に、保護者も分離型の方が望ましく思っていると言っていた。</p>	<p>例に挙げていただいた各自治体においては、それぞれの地理的条件、面積、学校の配置等、本市と異なる点もある。</p> <p>岸和田市においては、分離型として進めていく小・中学校が大半だと考えているが、施設一体型として整備可能な学校があれば、総合的に検討していくことになる。</p>
17	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>小中一貫校の中には、荒れている学校もあると聞く。中学生が荒れているのを見て、それが小学5・6年生に波及してしまうこともあるので、岸和田市も他人ごとではないと思う。</p>	【ご意見として承る】
18	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>特認校制度で、少人数教育やICT教育とあるが、単純に人数を割ると、令和10～12年度では1学年で76、80弱となり、2クラスで考えると38人程度、支援学級の子どもたちを入れると、40人を超えることも考えられる。</p> <p>そんなパンパンの2クラスで、果たして少人数教育ができるのか、どういう想定なのか聞かせてほしい。</p>	<p>少人数学級と、少人数での指導は異なる。少人数学級については、これまでも国や府へ要望を重ねているところ。</p> <p>少人数指導については、これまでも学校ごとに実施しており、適正規模・適正配置の取組に関わらず、全市的に取り組んでいく。</p>
19	11.21(日)	旭太田	発言者B	<p>スケジュールについて、資料の中で、通学区域の見直しを含めて適正化した場合、と令和8年度からの児童生徒数が示されているが、これは令和8年度開校をめざしているということなのか。</p>	<p>令和8年度開校をめざしているということではない。</p> <p>客観的な数値を示すため、出来る限り直近での推計もお示ししている。</p>
20	11.21(日)	旭太田	発言者H	<p>こういった取組は大阪府で初めてなのか。</p> <p>どうして岸和田市で取り組むことになったのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組について、大阪府内でも先進的に各市が実施している。どちらかといえば、岸和田市はこのような取組の着手が遅れていた方だと認識している。</p> <p>それは、小学校区単位でまちづくりを進めてきたことや、地域性、歴史等、様々な理由があったからだと考える。</p> <p>今後、少子化による、更なる児童生徒数の減少が見込まれる中で、今取組に着手したとしても、早く令和10年の4月開校になり、これ以上先延ばしにすることは難しい課題だと考えている。</p> <p>教育委員会として、責任を持った公教育を実施する上で、今の段階から取組を進めていかなければならないと考えている。</p>